



↑2025年12月22日にJAXA種子島宇宙センターから打ち上げられた、準天頂衛星「みちびき5号機」を搭載した、H3ロケット8号機。

(画像：MBC 南日本放送)

本日（2025年12月22日）、JAXA種子島宇宙センターから、準天頂衛星「みちびき5号」を搭載したH3ロケット8号機が、10時51分ご

ろ、定刻通り打ち上げられた。しかし、第2段エンジンの燃焼が予定より早期に終了し、軌道投入に失敗した。

ロケットは当初7日に

打ち上げの予定だったが、第2段エンジンに搭載していた誘導制御に必要な装置に不具合が見つかり、17日に延期された。また同日には地上の冷却注水設備が異常を感知し、発射約17秒前に緊急停止。JAXAは設定が誤っていたことが原因と特定し、22日の再打ち上げに臨んでいた。

みちびき5号機は日本版GPSを担う測位衛星だ。三菱電機が2010年に打ち上げた初号機から開発を担当し、内閣府が運用する。2025年2月に打ち上げられた6号機を含む5基が運用中だ。内閣府は今回打ち上げた5号機と2026年2月1日に打ち上げを予定する7号機を追加し、2026年度中にも7基体制にする。

H3ロケットは、打ち上げ費用の削減、静止軌道打ち上げ能力の増強、打ち上げ回数の増加を同時に達成して、宇宙開発における日本の自立性確保とともに、商業受注で国際競争力をるために開発された。H3ロケットを原型とした改良開発であつたH-2A/Bと違い、H3ロケットは大型液体燃料ロケットだ。機体の一部に車と同じ部品を使うなどして、費用削減に繋げ、H-2Aの半額の約50億円を目指している。

射場整備作業期間も減らし、年間打ち上げ可能回数を6回に増加させる。

2023年3月に試験機1号機の打ち上げに臨んだが失敗し、次年2月の試験機2号機の打ち上げで初めて衛星の軌道投入に成功し打ち上げに成功した。その後も、5機連続で成功を修めている。

個人的には、日本のロケットの売りは、「正確性」にあると考えている。現在は運用が終了している、H-2Aロケットは、50機中49機成功しており、驚異の成功率98%を叩き出した。しかし、このロケットは1機当たり約100億円の費用がかかり、商業受注の少なさは長年の課題だった。

そこで改良された新型が、H3ロケットだ。このロケットは、コストダウンと打ち上げ回数の増加を目標にしている。今までの日本のロケットの成功率は素晴らしく、期待の星だった。

しかし、初号機の失敗に続き、今回8号機の失敗は、日本の宇宙開発にとって大きな打撃となる。

これでは、JAXAと共に日本のロケットの信頼度が下がってしまう。これからJAXAの動きに注目したい。

H3ロケット 2度目の失敗

★ H3ロケット

そら
宇宙の声

今回の失敗が、日本の宇宙産業にどうかかわるかを考えたい。

業にどうかかわるかを考えたい。

打ち上げ能力の増強、打ち上げ時の安全性の向上、年間打ち上げ回数の増加を同時に達成して、宇宙開発における日本の自立性確保とともに、商業受注で国際競争力をするために開発された。H3ロケットを原型とした改良開発であつたH-2A/Bと違い、H3ロケットは大型液体燃料ロケットだ。機体の一部に車と同じ部品を使うなどして、費用削減に繋げ、H-2Aの半額の約50億円を目指している。

射場整備作業期間も減らし、年間打ち上げ可能回数を6回に増加させる。

2023年3月に試験機1号機の打ち上げに臨んだが失敗し、次年2月の試験機2号機の打ち上げで初めて衛星の軌道投入に成功し打ち上げに成功した。その後も、5機連続で成功を修めている。

個人的には、日本のロケットの売りは、「正確性」にあると考えている。現在は運用が終了している、H-2Aロケットは、50機中49機成功しており、驚異の成功率98%を叩き出した。しかし、このロケットは1機当たり約100億円の費用がかかり、商業受注の少なさは長年の課題だった。

そこで改良された新型が、H3ロケットだ。このロケットは、コストダウンと打ち上げ回数の増加を目標にしている。今までの日本のロケットの成功率は素晴らしく、期待の星だった。

しかし、初号機の失敗に続き、今回8号機の失敗は、日本の宇宙開発にとって大きな打撃となる。

これでは、JAXAと共に日本のロケットの信頼度が下がってしまう。これからJAXAの動きに注目したい。